

# 茶の香ただよう湯気と熱気に包まれて

手揉み技術を伝承 茶手揉み保存会 夏期講習会に多数の参加者



日本茶インストラクター  
北海道ブロック長の島山さん



講師の熱心かつ丁寧な指導のもと、多くの参加者が真剣に手揉みを学びました



「お茶を好きなこと」にかけては誰にも負けません。

日本茶インストラクター北海道ブロック長の島山さんに話を伺いました。

「北海道には日本茶インストラクターが100人ほど登録しています。今回、特に熱意がある3人を連れてきました。若い女性たちですが、その熱心さや向上意欲は素晴らしく、私も頭が下がるほど。製造工程から学んでみたいということなので、今回一緒にお邪魔することになりました。以前から土屋優子さん（日本茶インストラクター・水川出身）と交流があり、北海道に来ていただいたこともあります。今回は、前日に土屋さんのお宅に泊めていただき、茶畑の見学もしました。3人とも今回の経験で、さらにお茶への興味が深まったようです」と話していました。

女性たちに話を伺いました。「私たちは日本茶インストラクターとして活動していますが、北海道には茶畑がありません。今回、川根本町に来てお茶を『味わう』ことだけではなく『つくる』ところから関わることができて本当に嬉しいですね。お茶が好きな気持ちは誰にも負けませんよ！」と話してくれました。

手揉み初体験中のご様子。お邪魔するのと、「見よう見真似でやってみます！事前にビデオで学習してきたけれど、見るのとやるのでは全然違いますね」と戸惑いの言葉が。

しかし、指導員の方から「上手に採めるよ」と励ましの言葉がかけられ、一

みどりのふるさと協力隊員として川根本町で活動したいです。

堂笑顔が弾んでいました。真剣に教わりながらも、楽しそうにお茶を揉む姿からは「本当にお茶を愛しているんだ」という気持ちがにじみでているようで、感心させられました。

この中の女性の一人は、NPO法人地球緑化センターの「みどりのふるさと協力隊（昨年、石井有美さんが本町で1年間活動した事業）に応募して、川根本町での活動を希望していると話してくれました。「土屋優子さんにそういう事業があることを聞きました。農業として、植物としてお茶が好きで、学んでみたいと思っていたので興味を持ちました。昨年北海道の方が派遣されていたということも聞き、1年間いろいろ大変だとは思いますが、希望が通ればこの町に来てみたいです」とのことでした。

ブロック長の島山さんの言葉です。「私たちは特に川根茶、川根地域のファンなんです。これからも互いに行き来を繰り返して、お茶を通じた交流を深めていければ嬉しいですね」

ちなみに、3人の女性が手揉みしたお茶は、ほかのお茶に負けず劣らず見事な仕上がりでした。



「熱っ！」と言いながら、箸で茶葉をかくはんしています  
(茶葉を均一に蒸すための作業です)  
指導員の話では、茶の香りの変化（タイミング）が重要ということでした



右ページの右側写真 上から  
●50人を超える参加者が集まった研修室  
●北海道から参加した女性たち  
楽しそうに研修していました  
●手揉み指導中 各班に分かれて実習しました  
●露切（つゆきり）と呼ばれる工程  
せいろを前後に振って、露を切ると同時に茶葉をさましています



手揉み講習会に50人を超える参加者が集う。県外からの参加者も。

7月28日、茶手揉み保存会川根支部が主催する手揉みの夏期講習会が開催されました。（農林業センター 地名地区）  
茶手揉み技術の伝承のため行われる講習会で、指導員の熱心な指導のもと、蒸し、揉み、仕上げなど一連の技術について実習しました。  
会場には50人を超える参加者がつめかけ、改めて手揉みに対する関心の高さが伺えました。  
今回、県外からも多くの方が参加していましたが、特に目を引いたのが、はるばる北海道から参加した3人の若い女性たちです。  
日本茶インストラクターとして活動しているこの3人の女性は、日本茶インストラクター北海道ブロック長の島山さんとともに、手揉みの現場を初体験するため本町を訪れました。